

課題提起

第7回FLECフォーラム クロージングシンポジウム
2025年3月16日（日）

社会福祉法人麦の子会 北川 聡子

違う施策として位置付けられてきた

こどもの教育と支援が、**違う政策**で進められてきた。そのため、**障害のないこどもとあるこども**など、多様性があるこども同士が**理解しあえる場**がまだ限られている。

こども子育て施策



障害児施策



こども家庭庁ができたことは画期的なこと

知らないことからくる偏見や差別ある

- 共に過ごす機会や理解しあえる機会がなかった結果、**差別や偏見につながる要因**となっている。
- 残念ながら大人になってから障害のある方と地域で共に過ごすことが難しくなってしまった事例もある。（グループホーム建設反対運動など）



ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン

「ダイバーシティ（多様性）とは
パーティーに招かれ**同じ場**にいること
インクルージョンとは**同じ場**にいてダンスを
一緒に踊ること
(**対等なメンバーとして所属感を覚えること**)」

(Vernā Myers : ヴェルナ・マイヤーズ)



本研究での定義

「インクルーシブ保育とは、障害の有無、国籍、性別、性的指向に関係なく、**すべての子どもが一緒に**過ごし、**育ち合う環境**を作る保育の形態であり、**すべての人が共に生きる「共生社会」の実現**に向けた基盤を築くもの」



児童発達支援センターに通園する親の声

妊娠中、わが子が障害児とは思わなかった。育休明けで保育園を利用することを決めていたが、障害があることがわかり保育園に行けなくなった。こどもも私も人生が変わってしまった。その時『**私のこどもは一生障害児の中で生きていくのか**』と思った。

今は児童発達支援センターに通い幸せを感じている。
でもあのとき、**保育園でもこのセンターと同じような発達支援や家族支援が受けられていたら、地域のこどもと同じ保育園に行きたかった。**（選択肢が平等ではなかった。）

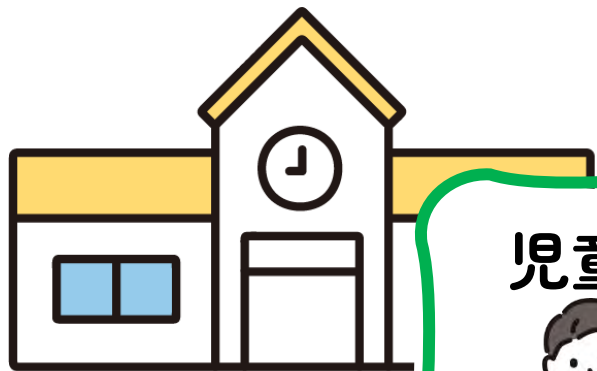
保育園も充実してほしいし、社会にも障害があるこどもも大切なこどもであるという価値観になってほしい。



全てのこどもが保育園・幼稚園・こども園でも
一人一人に合ったオーダーメイドの支援のために

児童発達支援の併設

保育園・幼稚園・こども園



児童発達支援



保育園に専門職を配置

保育園・幼稚園・こども園



専門職



一人ひとりの子どもの育ちを支えるため障害児支援の役割

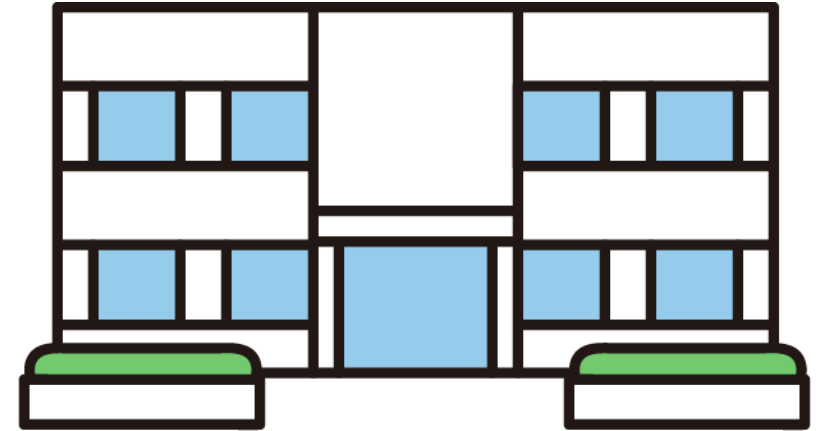
園や保育者が抱える悩みや課題に具体的なアドバイスやサポート。

アウトリーチ支援

保育園・幼稚園・こども園



児童発達支援センターなど



障害のある子どもと家族支援の専門性を持つ職員が支援を行う（オーダーメイドの支援のために）

日本中どこに生まれても障害のあるの
子どもや家族を支えられる共に生きる地域
をつくる

障害児支援の専門性と他の子ども分野の
関係者と手をつなぐことが**これまで以上に必要**

幸せな子ども時代のために

インクルーシブ保育と育ちの保障

こどもにとっては、同じ場所で共に遊び育ちあうインクルーシブ保育が必要

こども観・人権観のアップデート

- 能力主義（エイブリズム）からの脱却
- すべてのこどもの人権と尊厳が守られる事—リスペクトされた環境はその子の持っている力が開花する

みんなにとって居心地のいいと思える地域

- ▶ 差別は徹底的に外していこう（フランス）

福祉

- ▶ より良い社会歴史をつくる役割もある

こどもにどんな風に育ってほしいか—自分と違った相手もリスペクトできる人に、よい世の中や国をつくる担い手に（イタリア幼児教育担当者）

保育は元来から「インクルーシブ」な理念を含有しているものである（日本）

今後の在り方・体制整備・制度改革 未来予想図案

「障害のある子どもと家族が安心して地域で暮らしていくために共生社会を目指して」

【幼児期】



児童発達支援センター

発展

発展

こども園に

一体型
児童発達支援事業

制度の壁をなくす

こども園
通所部門

幼稚園
保育園
こども園

地域こども家庭
発達支援センター

幼稚園・保育園・こども園・児童発達支援・放課後等デイサービス・学校・児童養護などの障害のある子どもの支援

これからも、障害のある子どもの支援は大切

児童発達支援など



【学童期】

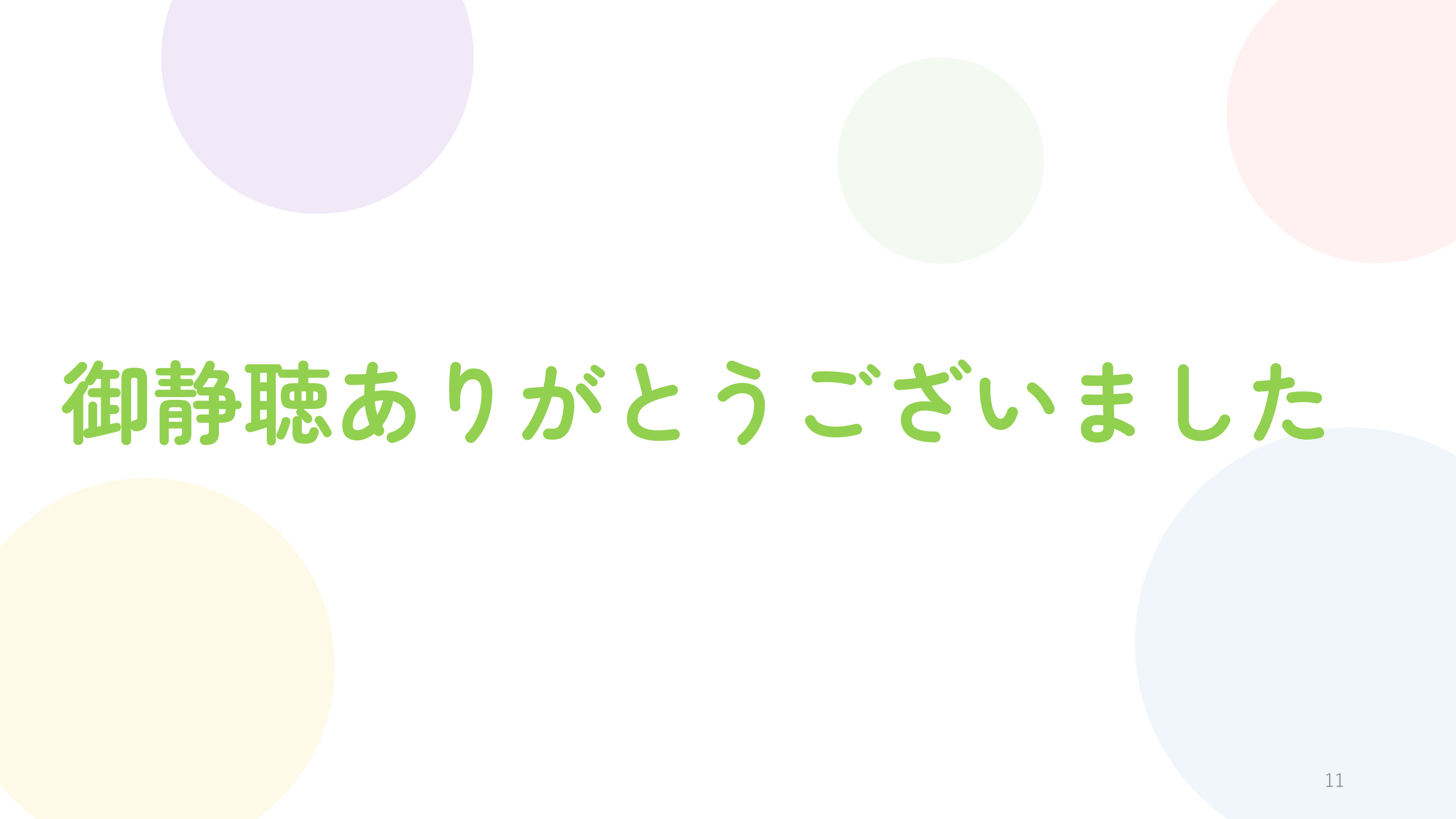
障害のない子ども、きょうだい児など一定の割合で受け入れることができる。

共生型

放課後等デイサービス

放課後児童クラブ





御静聴ありがとうございました